

あなたにとって『図書館とは』

～あなたにとって図書館とはどのような場所ですか～ 物質化学工学科3年 今村 大河

読者諸君にとって「図書館」とはどのような場所か、考えてみて欲しい。

「一週間に一度訪れる程大好き」「訪れることをためらってしまう」いろいろな言葉が頭の中に浮かんだらう。筆者は「偶に立ち寄る落ち着ける空間」というイメージを持っている。図書委員会に所属している事抜きに、筆者はこの空間を非常に気に入っている。

筆者は本好きがきっかけで、図書委員会へ参加し、あれよあれよという間に所属してから約三年の年月が経過した。図書委員会としての業務の中で印象深いものはブックハンティングだろうか。大阪梅田にあるジュンク堂やオンラインショッピングにて、学科で出たリクエスト本を購入する年二回のイベントである。クラスメイト達の求める本を探す時間、見慣れない本との出会い、パリッとした新書の香り、業務の傍ら筆者の興味を惹く本に出会えた時プライベート用に本を購入することもまた良いスパイスになっている。もはや業務であることを忘れて、非常に楽しんでいる節もある。

筆がのってきたので、筆者の図書館利用について語らせてほしい。

思えば筆者が図書館を利用する目的は大きく分けて二つの理由だ。レポートを書く時や発表製作をする時のヒントを得るため、または、読書用の本を探すためである。

後者の目的で訪れた際には、非常に良い経験を得られる。筆者はタイトルを見てランダムに本を選んで借りている。この方法の時、筆者の趣味の本に出会えた時にはまた改めて行いたいと思える。筆者に合わない本を手にとってしまった時には新しい扉を開ける時もあるのでまた一興である。

前者の目的で訪れた際には、筆者の求めるデータを探して一時間以上こもる事が多い。

「私の発想は正しいのか？はたまた誤りなのか？」そのような葛藤と興味と共に本にかじりつく時間が週一の習慣になりつつある。そんな時間が最近は気に入ってきた。

ここまで筆者の本好き、図書館愛について控えめに長々語ってきたが、ここで改めて読者諸君に問いたい。あなた方にとって「図書館」とはどのような場所か。

「苦手意識が…」と思ってしまう読者諸君はこのような長文を書く変人を生む「図書館」と言う環境に何度か通って欲しいと筆者は願う。

この長文を読んで図書委員に興味を持った、図書館に行こうと思えた読者諸君は是非とも図書館に足繁く通っていただきたい。

最後にこの言葉で締めくくりたい。「読者諸君、来たれ図書館、来たれ図書委員会！」

新刊のご案内（その1）

令和7年1月以降に【新刊コーナー】へ排架した新刊図書をご案内します。

【第172回芥川賞受賞作品】

『D T O P I A（デートピア）』

安堂ホセ著

『ゲーテはすべてを言った』

鈴木結生著

【第172回直木賞受賞作品】

『藍を継ぐ海』

伊与原新著

【第172回芥川賞候補作品】

『ダンス』

竹中優子著

『二十四五』

乗代雄介著

【第172回直木賞候補作品】

『よむよむかたる』

朝倉かすみ著

『飽くなき地景』

荻堂顕著

『秘色の契り』

木下昌輝著

『虚の伽藍』

月村了衛著